

令和3年第3回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

6月23日・6月24日・6月25日

質問順位

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 國利知史 | 2. 赤木忠徳 |
| 3. 横路政之 | 4. 宇江田豊彦 |
| 5. 坪田朋人 | 6. 政野太 |
| 7. 松本みのり | 8. 林高正 |
| 9. 吉川遂也 | 10. 谷口隆明 |
| 11. 藤木百合子 | 12. 福山権二 |
| 13. 前田智永 | |

庄原市議会

令和3年6月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	國利 知史	本市におけるスポーツ振興について	1
		七塚原高原の活用について	2
2	赤木 忠徳	庄原市は芸備線活用促進のオピニオンリーダーとなるべき	3
		新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた全てに迅速な支援策を	4
3	横路 政之	運転免許返納者支援について	5
4	宇江田 豊彦	かんぼの郷庄原取得方針について	6
5	坪田 朋人	本市のホームページによる広報について	7
		いざなぎカードの利用促進について	
6	政野 太	庄原市人材育成基本方針について	8
7	松本 みのり	かんぼの郷庄原の取得方針について	9
8	林 高正	人口減少対策専門チーム創設について	10
		農林業の振興について	
		かんぼの郷庄原の取得後の経営について	
9	吉川 遂也	庄原市キャッシュレス決済推進プロジェクトの進捗状況と今後の事業展開について	11
10	谷口 隆明	新型コロナウイルス感染症対策について	12
		かんぼの郷庄原の取得問題について	13
11	藤木 百合子	女性の地位向上と貧困問題	14
		「生理の貧困」対策を	15
12	福山 権二	市民生活の現状把握と分析について	16
13	前田 智永	市政情報や緊急情報、イベント情報などの情報発信の拡充について	17
		子供達の人権を守るケアやサポート環境について	18

一般質問日程

6月23日（水）國利知史・赤木忠徳・横路政之・宇江田豊彦・坪田朋人

6月24日（木）政野太・松本みのり・林高正・吉川遂也・谷口隆明

6月25日（金）藤木百合子・福山権二・前田智永

順位	1	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 本市における スポーツ振興 について	<p>(1) スポーツ大会や合宿の誘致、スポーツイベントの開催による交流人口の増加は地域の賑わいを生み、活性化にも繋がると思われる。上野総合公園の改修も終わり、西城温水プール水夢や、道後山高原クロカンパークなど、充実したスポーツ施設を活用した本市のスポーツによる地域の活性化について考えを伺う。</p> <hr/> <p>(2) 超高齢社会を迎え、人生 100 年時代に突入した。本市の平均寿命は、2015 年の統計では男性 80.6 歳、女性 87.3 歳となっている。医学の発達などにより今後も平均寿命は延び、一人暮らしの高齢者も増加すると予想される中で、心身共に健康で介護が必要ない状態である「健康寿命」を延ばすことが重要であり、スポーツや健康作りのための運動の重要性が増してくると思われる。</p> <p>「病気や怪我をしたから治す」という考え方から、スポーツや運動を通じて「病気や怪我をしない身体を作る」という考え方に切り替え、健康寿命を延ばすための予防医学の一次予防である健康増進の取り組みが必要と考える。</p> <p>本市における健康作りや予防医学に基づく現在の取り組み、また、今後の新たな取り組みについて伺う。</p>			市長

順位	1	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. 七塚原高原の 活用について	<p>七塚原高原は、明治33年に日本初の国立種牛牧場が設立され、日本の酪農業の礎を築いたといわれる七塚原牧場を有し、七塚原記念館や風情ある赤い屋根のサイロ、ポプラ並木と牧草地など、北海道を思わせる牧歌的な風景で訪れる方の心を和ませ、また、子供たちの情操教育の場としての役割も果たしてきた。</p> <p>庄原市と三次市との境の道路看板も七塚原のポプラ並木とサイロ、牛が描かれており、庄原を象徴する場所となっているが、現状では、七塚原記念館は壁が朽ち、ガラスは割れ、サイロは汚れて色褪せており、決して庄原市を代表する場所であるとは思えない状況である。</p> <p>以前から一般質問で何度か記念館の保存についての質問があり、広島県と協議するとの答弁があったが、その後の広島県との協議結果と、今後の七塚原高原の活用について伺う。</p>			市長

順位	2	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市は芸備線活用促進のオピニオンリーダーとなるべき	<p>(1) 5月19日、JR芸備線沿線の庄原市、三次市、安芸高田市、広島市が参加する芸備線対策協議会は、JR西日本広島支社に対し「芸備線の存続に向けた沿線自治体及び沿線地域によるJR線を活用した利用促進策の実施に係る協力要請」を書面で提出されている。</p> <p>要請の内容には「駅舎施設等の活用」「特別車両による貸切列車の運行」「使いやすい乗車券の設定」とあるが、その詳細な内容について伺う。</p> <hr/> <p>(2) 芸備線の活用促進においては、庄原市は、他の3市と肩を並べての行動も大切であると思うが、市単体での具体的促進策をいち早く策定し、市民と共に行動することが重要と考える。</p> <p>活用促進では、公共交通利用促進条例または公共交通利用の日を制定し、マイカーからJR、備北交通など公共交通の重要性を市民と共有し、ほろか、なみかのポイント付与など、あらゆる促進策を打つべきと考える。</p> <p>そこで、庄原市単体での具体的促進策はどのように進めようとされているのかを伺う。併せて、活用促進を進める上で、市は利用促進条例等を制定する考えがあるのか伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた全てに迅速な支援策を	<p>新型コロナウイルス感染症拡大によって、全ての業態が大きなダメージを受けている。これまで、国の第1次から第3次の交付金により、市として、各種の支援策を打ち出しているが、この支援策から外れた業態があるのではないか。</p> <p>感染拡大防止の取り組みとして、外出を控え、家庭での食事が増えるなどにより、食品スーパーの売上が好調と報道があり、農産物生産拠点である庄原市の農家は大丈夫だと安堵していたが、農産物によっては大きな格差が生じていると聞いている。</p> <p>一例として、近年、市場で脚光を浴びていた「ヒバゴンネギ」は市場価格が大幅に下落していると聞く。</p> <p>やはり、新型コロナウイルス感染症防止対策のための緊急事態措置により、特に飲食関連業態への休業要請の影響がここに来て生産者にも出ていると感じる。</p> <p>この様に、業態のみでなく、品目による影響についても早急に調査し、きめ細かい支援策を進める必要があると考えるが、見解を伺う。</p>		市長

順位	3	質問者	横路 政之
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 運転免許返納者支援について	<p>近年、高齢者の事故が増加している中で、本市では、運転免許証を自主的に返納した65歳以上の方を応援する事業として、「庄原市運転免許返納高齢者支援事業」が実施されている。</p> <p>自身の運転操作に不安をもたれ、自ら運転免許証を返納し事前に事故を回避したいという行動は、返納後の移動手段の確保を考えると勇気のいる行動である。</p> <p>このような行動は65歳以上に限ったことではないと考える。身体的理由で免許証を返納せざるを得ない方もおられる。そこで次について伺う。</p> <p>(1) この事業開始から当事業の該当者は何名か。</p> <p>(2) 身体的理由で免許返納された方も、当事業の対象にすべきと考えるが、考えを伺う。</p> <p>(3) 支援内容は、市内タクシー利用助成券、広島県交通系ICカードチャージ券のいずれか1万円を1回のみ助成している。この支援を複数回に渡る支援に拡大してはどうか伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. かんぼの郷庄原取得方針について	<p>市長は、2019年11月、日本郵政株式会社より、本市に打診されたかんぼの郷庄原の譲渡について、5月26日企画建設常任委員会にて、取得の方針を明らかにされた。</p> <p>今後、6月末までに議会及び市民・団体等の意見を広く求め、最終判断をするとのことであり、時間的ゆとりの無いなか、結論が求められている。</p> <p>本施設の管理運営手法として、観光宿泊施設として位置づけ、指定管理による運営としているが、企業経営として運営する場合と市民の利便性を確保することを目的として管理運営する場合とでは、施設の維持管理期間や財政負担など大きく違いが出てくるものと考ええる。</p> <p>取得後の本施設をどのように活用し、どのくらいまで維持管理を行うのか、また、最大の財政負担はどの程度まで可能と考えられているのかなど、本施設の活用方針について伺う。</p>		市長	

順位	5	質問者	坪田 朋人
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市のホームページによる広報について	<p>自治体のみならず企業や個人に至るまで、ホームページは誰もが閲覧できる「顔」とも言える大変重要で効果的なツールである。このホームページについて、活用の方法と今後のあり方について伺う。</p> <p>(1) ホームページの必要性についてどのように認識しているか市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 本市の情報をホームページに掲載するにあたり、集まった情報をどの様に集約し、どれくらいの周期で更新やチェックを行っているのか伺う。</p>		市長
2. いざなぎカードの利用促進について	<p>昨年度、本市では、プレミアムポイントの付与を含めたいざなぎカードの発行が行われた。このシステムが今後更に広く普及し、更に幅広い活用がされることを期待するものである。</p> <p>カードの利用促進を図るため、6月からキャッシュレス還元サービスも行われているなど次々と取り組みが進められているが、現在までの市内でのカード普及率及びプレミアムポイントの利用状況と、今後、この事業を庄原市キャッシュレス決済推進協議会と連携して、どのように展開されようとしているのか市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	6	質問者	政野 太	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 庄原市人材育成基本方針について	<p>(1) 庄原市定員マネジメントプランによると、令和3年4月1日時点での目標総職員数は513人となっている。しかし、実際には同時点で502人の配置となっている。さらには休職等による正職員の欠員もあり、目標の職員数より大幅減となっている。その減数を会計年度任用職員で補っているのが実態であるが、そのことによる課題をどのようにとらえているのか市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 庄原市人材育成基本方針による職員の育成は住民福祉の向上と活力ある地域社会の構築に重要な役割を持っていると認識している。この方針に基づく具体的な取り組み、いわゆる実施計画を示さなければ、その成果、効果を客観的に評価する事はできないと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 庄原市人材育成基本方針が平成20年3月に策定されて以降、国において平成26年には人事評価制度の導入、また平成27年には女性活躍推進に向けた取り組みの推進、さらには長時間労働の是正、ワーク・ライフ・バランスの推進などの法整備が行われてきた事からも、本市の方針もそれらに合わせた改定が必要ではないかと考えるが、市長の見解を伺う。</p>			市長		

順位	7	質問者	松本 みのり
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. かんぼの郷庄原の取得方針について	<p>(1) かんぼの郷庄原を市が取得するのであれば、現在の赤字経営からの脱却に向けた事業計画が必要と考える。</p> <p>取得後、何年間で黒字経営を目指すのか、施設の改修などの計画をどの程度考えているのかなど、具体的な数字があればそれを交えて伺う。</p> <hr/> <p>(2) 市民が街づくりに主体的に参加し、意思決定に関わるためには、厳しい財政状況を踏まえて、正確な数値による情報の提供が必要と考える。かんぼの郷庄原取得の是非をめぐって、これまで行われた市民・団体等の意見募集に際し、市が取得した場合財政負担等についてどこまで検討し、情報を公開された上で行ったのか伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	林 高正
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 人口減少対策 専門チーム創 設について	<p>改選後初の臨時議会において市長は、「人口減少対策について、市役所内に組織を横断的に統括する専門チームを設置し、民間団体とも連携を図りながら進めてまいります」と発言されたが、検討されている具体的な内容と、その進捗状況等を伺う。</p>		市 長
2. 農林業の振興 について	<p>同じく臨時議会で市長は、豊富な森林資源を活用し、「林業後継者の育成等を見据えて、農林業を儲かる産業に育てる施策を推し進めていく」と発言されたが、林業後継者の育成について既に取り組まれていることや、これからやろうとすること等、具体的な考えを伺う。</p>		市 長
3. かんぼの郷庄 原の取得後の 経営について	<p>「必要不可欠な施設であるかんぼの郷庄原を市において取得すべきと判断した」と5月31日開催の議員全員協議会で発表された。</p> <p>市長の判断は、取得で決定した訳であるが、取得後の具体的な経営計画等が示されていない。</p> <p>指定管理者に全て任せるといった発想ではなく、かんぼの郷庄原が市の所有物になることから、具体的経営計画の発表、また、業績が悪化した際の責任の所在についても明確にしておくべきと思うが、考えを伺う。</p>		市 長

順位	9	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市キャッシュレス決済推進プロジェクトの進捗状況と今後の事業展開について	<p>(1) 昨年度、庄原市キャッシュレス推進プロジェクトにより、いざなみカードの発行が行われている。</p> <p>現在、カードの加入率はどのようになっているか伺う。</p>		市長
	<p>(2) コロナ禍のなかで10,000円分のプレミアムポイント付のいざなみカードを発行されたことは高く評価できる。現在の利用率及び経済波及効果について伺う。</p>		
	<p>(3) いざなみカードは、キャッシュレス機能だけではなく、就学児童の見守り機能や、一人暮らしのお年寄り見守り機能、ボランティアや地域行事参加者へのポイント付与など、活用方法によっては様々な展開が期待できるものとする。</p> <p>庄原市キャッシュレス決済推進協議会、自治振興区等と連携を取って、いざなみカードを最大限利活用することが重要であるとする。今後の事業展開についてどのように考えているか伺う。</p>		

順位	10	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 新型コロナウイルス感染症対策について	<p>新型コロナウイルス感染症を封じ込めるためには、大規模な検査、ワクチンの安全・迅速な接種、十分な補償と生活支援の3本柱が欠かせない。これらは、国に大きな責任があるが、庄原市政としてできることは全てやらなければならない。十分な営業の補償、生活支援については、市役所として市内業者の実態把握に足を運ばれ、実態に見合った対策を強化されることを強く要請し、以下の2点について質問する。</p> <p>(1) PCR検査を抜本的に拡充し、大規模な検査で感染拡大を封じ込めるため、庄原市内においてもPCR検査ができるよう、引き続き県に強く働きかけて実現すべきと考える。市長の見解を伺う。</p> <p>(2) ワクチンの安全で迅速な接種のため、庄原市の実態にあった工程表を分かりやすく繰り返し市民に知らせること、その際、在宅介護サービス従事者への接種を優先することや、基礎疾患を有する方と並行して、保育士や教職員なども優先するなど、市独自の手立てをとる考えはないか伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. かんぼの郷庄原の取得問題について	<p>かんぼの郷庄原は、庄原市にとって大切な施設であり、存続することを多くの皆さんが望んでおられることは間違いない。ただ、公金を扱う行政としては将来に向かって責任のある対応をしなければならない。過疎債などを活用した施設の取得や当面の修繕はできても、長期にわたる管理運営など、庄原市に財政負担がかかってくることは間違いない。</p> <p>10年後、20年後を展望すると、人口減少による行政サービスの縮小が避けられないなか、「庄原市公共施設等総合管理計画」の公共建築物の管理に関する基本原則と今後の目標（総延床面積を平成27年から20年間で25%削減）を鑑みても、新たな行政財産の取得には本来慎重であるべきと考える。</p> <p>このような情勢のなかにおいて、施設を取得するのであれば、市は将来にわたる投資効果と経営見通しを具体的に示す責任がある。まちづくり基本条例や議会基本条例の精神からも、6月末までに結論を出すのではなく、しっかりと市民の声を聴き検討すべきと考える。市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	11	質問者	藤木 百合子	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 女性の地位向上と貧困問題	<p>(1) 庄原市において模範となる職場である市役所は、職員が、女性も男性にとっても働きがいをもって、働き続けられる所であってほしい。それによって市民にとってよりよいサービスが提供されるのではないかと考える。</p> <p>庄原市役所における女性管理職の占める割合、一般職採用試験受験者の男女数、昨年度の育児休業取得者数、及び昨年度の男性の育児休業取得者数について伺う。</p> <hr/> <p>(2) コロナ禍において、非正規労働が多い女性の貧困が問題となっているが、庄原市も例外ではないと思っている。</p> <p>女性目線、意見が活かされ、生活保護などのセーフティネットをさらに受けやすくされることを望む。</p> <p>庄原市在住の女性における就業率と非正規雇用比率、一人親家庭のうち母子家庭の割合及びその世帯の生活保護受給率について伺う。</p>		市長	

順位	11	質問者	藤木 百合子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 「生理の貧困」 対策を	<p>「全ての人の月経衛生・健康を促進するための日として、沈黙を破り、生理に対する否定的な社会の意識を変えよう、月経衛生を政治の優先課題に」が提唱され、毎年5月28日を世界月経衛生デーとして世界各地で活動が広がっている。</p> <p>生理の貧困について、国内では「#（ハッシュタグ）みんなの生理」が実施したアンケートにおいて、高校、大学、専門学校に在籍している女性の5人に1人が「金銭的理由で生理用品を買うのに苦労した」と答えている。</p> <p>内閣府男女共同参画局は、令和3年5月28日、「生理の貧困」に関する国や地方自治体の取り組みを公表し、生理用ナプキンなどを配布する自治体が255団体あることを明らかにした。また、文部科学省は、4月14日の事務連絡で「提供場所を保健室のほかに設けたりするなど、必要とする児童生徒が安心して入手出来るよう、提供方法や配置場所等の工夫などをご検討いただきたいこと。」「保健室等に通常備えている生理用品を渡した場合に返却を求めないことなどの対応と併せて適切な支援をお願いしたいこと」としている。</p> <p>本市においても、生理用品について、他の自治体で行われた防災備蓄品の無償配布や、市内の学校の女子トイレ、福祉事務所などに配備をすることについて市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	12	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市民生活の現状把握と分析について	<p>日本経済は長期不況、恐慌状況に陥っており、マスコミによっても日々の採食さえ不安定な家庭が増加していることが報道されている。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響は、特に生活困窮者を直撃しており、世界的にも多くの死者も同時に報道されている状況である。国内も例外ではなく、生活困窮者への影響が拡大していると考ええる。</p> <p>このような中で、地方自治体の責務として、住民福祉の増進を図るための事業展開を企画立案するためには、市民生活の現状把握と分析が不可欠になると考える。</p> <p>そこで、市は、現在の庄原市民の生活状況、市内の経済状況についてどのように把握し、分析をしているのか伺う。</p>		市長

順位	13	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市政情報や緊急情報、イベント情報などの情報発信の拡充について	<p>現在、庄原市では、住民告知端末による放送や、Facebook 等の活用により、各種の情報を発信している。</p> <p>それぞれ、市民への情報発信には有効な手段といえるが、不便な点もあると聞いている。</p> <p>たとえば、住民告知端末は、未設置の方や聞き取りに不便を感じられる方にとっては情報取得が難しいものであり、Facebook についても、情報が見える化されているとはいえ、最新の情報が常に受け取れるわけではなく、市民一人一人に情報発信するには、タイムラグが生まれると感じている。</p> <p>そこで、配信により登録者へ常に最新の情報を提供できる LINE アプリを活用した情報発信を実施してはどうか伺う。</p>		市長

順位	13	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 子供達の人権 を守るケアや サポート環境 について	<p>(1) 全国的に新聞やテレビ報道により虐待やいじめ問題等、悲しい事件を目にすることが多いが、庄原市においても例外ではないと考える。</p> <p>日頃から行政や学校機関、地域の連携を取りながら子供達の人権は守らなければならないと思うが、コロナ禍で学校行事やイベントなど、人に接する機会が少なくなり、子供たちの姿が見えにくくなっていると感じる。</p> <p>現在、学校現場において、子供たちの状態や状況をどのように把握しているか伺う。</p>		教育長職務代理者
	<p>(2) 市内の公立学校において、児童生徒に新型コロナウイルス感染症患者が確認され、広島県による積極的疫学調査も実施されている。</p> <p>学校では、臨時休業措置や施設の消毒など、感染拡大の防止に向けた取り組みは進められているが、感染した児童生徒に対して、学校としての精神的ケアやサポート体制をどのように取り組まれているか伺う。</p>		